



「音羽パークロード600」の整備事業は、首都高速道路の高架下という利用度の低い空間を積極的に活用するとともに、道路と公園を一連のものにとらえ、そのイメージを向上させることを目的に整備が進められたものである。

施設の計画にあたっては、地域住民の要望を取り入れ、エントランスゾーン、多目的ゾーン、庭園ゾーン、児童公園ゾーン、ヘルスゾーン、遊歩道ゾーンとそれぞれに特徴をもたせた六つのゾーンを設けた。また、一部のゾーンを二層構造にしたほか、高架下であることから十分な日照が得られないため、植栽に際しては植種の選定に配慮している。

祭りやイベントの会場としても利用され、都市の中につくられた新しい空間は区民の交流の場として親しまれている。

DATA・BOARD 70

- ①東京都文京区春日1-16-21
- ②延長：660m、幅員：約21m
- ③エントランス・多目的・庭園・児童遊園・ヘルス・遊歩道の各ゾーン
- ④タイル材、人工芝、インターロックキングブロック、植栽ほか



70
音羽パークロード600